

琉球大学学術リポジトリ

小学校家庭科の授業とその授業法 (2) : 針と糸と着るとのことー

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2007-07-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 富士栄, 登美子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/1012

小学校家庭科の授業とその授業法 (2)

— 針と糸と着るということ —

富士栄 登美子

Method of Instruction in Needle-and-Thread Work and Wearing Costumes in Elementary School Homemaking Education

Tomiko FUJIE*

(Received Oct. 31, 1997)

Summary

It is our wish and heart's desire that school children cultivate large heart as well as creative and active minds to have youthful dreams in their life through homemaking education. To realize the wish and desire, it will be helpful to school children to acquire basic knowledge and skill that enable them to work with needle and thread and increase sensibility to clothing.

Therefore, it is very important how we teach school children to work with needle and thread and to wear costumes with the aim of developing their creative ability and desirable individuality by practical instruction in the elementary school homemaking course.

はじめに

本研究では、「家庭科の授業とその授業法」のその(2)として、被服の分野を取り扱う。

時間的経過を必要とする課題のときは、この週に1工程を、次の週に2工程をすることができる。例えば、糊付けとアイロンかけの題材のときである。あるとき、糊付けは説明だけにし、アイロンかけも、片身だけの示範とし、省略してしまったことがある。そのとき、省略してはならないことに気づき、実習後もう一度、示範してみせた。授業は、別の題材になっていたが、はじめの数分を使って、今度は、省略せずに、2工程にわけてしてみた。ここで、発見したことがある。学生たちにとっては、実習を済ませているものだから、実習後にしてみせる示範については、自分でしたことのある内容であったわけで、見方が以前と全然違っていた。見ようとしているのである。もう、

実習は済んで、評価され、その課題については、終わっているのにもかかわらずである。

そこで、授業法を少し変えてみることを考えた。つまり、示範をしてみせる、実習に入る。この流れを逆にしても可能なものであれば、その方が効果的である場合がある。とくに、「そんなこと知っている」と高をくくっているときは、なおさらである。まずは、やらせてみる。すると、個性がみえてきたのである。手本がないから、自分の頭や体験から、考えてやるしかないのである。授業者は、そこで気づいたつまづきや、個性を捉え、引き出し、そこを重点的に取り上げながら指導していくことができる。つまり、何を教えなければならないのかが見えてきたのである。その後、やってみせると納得するのである。

教師側の観察力と、見抜く力、引き出す力、捉えて修正できる力、そして、何より教師自身のゆとりが、指導者側になければならないことは、い

*Home Econ., Fac. of Educ., Univ. of the Ryukyus

うまでもない。

個性や「生きる力」を育てるためには、まず、基本があり、基礎がなければならない。そして、その基礎・基本は、失敗して気づくことから始めたい。失敗から工夫が生まれる。すなわち、教師は、支援しながら、子供たちの失敗を恐れず、子供たちにチャレンジできる力をつけさせたいと思う。また、このことは、児童が考える場面を多くもつこととなり、そこから、知恵となって働くはずであるからである。

本研究では、授業実践として、小学校家庭科第5学年「被服」の基礎の部分を取り上げた。生活の中の道具として、針があり、糸がある。そこには、夢があり、クリエイティブで、チャレンジしようとする意欲が出てくるような教材でありたい。さらに、短時間で出来上がる、見通しのもてる教材であると、つくることの楽しさが生まれてくる。

方 法

家庭科教育研究の授業で、子供と共に創る授業を目指して、学生たちと一緒に家庭科の授業づくりをしている。また、できるだけ、一人一人の個性が出るように、課題設定から、自由に決め、事前指導は、相談にのるというスタイルをとる。思うように授業を展開させてみる。

自由の中から、意欲と独創性が生まれることを学生たちから教えられた。

模擬授業の後、できるだけ塗り替えることはせず、修正し、提示してみせると、納得する。

1. 指導案を提示させ、どういう授業を展開しようとしているかを検討する。

- (1) 45分間の授業におさめる時間の問題、準備に必要な器具、道具、材料の相談、こちらからの要望などをこれだけは、というものにしほり、伝える。
- (2) 学生たちのもっている価値観を無視することなく、むしろ認める方向で関わる。授業に対する思いが深まっていくように、仕向ける。
- (3) 同じ題材であっても、一人一人違う指導案を作らせ、その中から、模擬授業にどれをやるかと、自分たちで決める。決まった指導案に基づいて、担当箇所を決め、グループ全

員で、45分間の授業を展開する。

(4) 6班のうち、1つの班が授業をするので、残りの5つの班が児童になる。

2. 3つの班の授業が終わった頃、それまでの授業を筆者がやるとしたらとして、なるべく、学生たちの発想を生かす形で作り直した指導案を提示して、説明する。

結 果

次の展開例は、できるだけ学生の発想を生かしながら、筆者なりに提案したものである。

〈展開例1〉

題材名：いろいろなぬい方（第5学年）

「クリスマスツリーに飾りをつけよう」

ねらい：玉結び、さし縫い、玉止め、かがり縫いなどの働きや縫い方がわかる。

月 日：12月13日（クリスマスに近い日）

(1)

時 間：90分（45分*2時間）



図1 クリスマスツリーを飾ろう

学習の展開

児童の活動	教師の支援
・見本のマスコットで玉むすび、玉止め、さし縫い、かがり縫いを見る	・グループにひとつ作っておいだ見本を配る
・これらのやり方を使って、ツリーを飾るマスコットをつくる	・縫いに入る前に安全教育を行う (2)
	・教科書にある仕方縫い方図で説明する裏になる部分に名前

・上記の4つの仕方や働きをもう一度知る (7) ・出来上がった作品をツリーに飾り、作品の発表をする (8)	を縫い取る (3)(4)(5)(6) ・工夫したところを発見し、評価のこたばを添える (9)
--	--

- (1) この教材は、時期を選ぶ。クリスマスに近づいているときであるからこそ、教材として生きてくる。ダンボールで作ったツリーを黒板につける。これだけで、児童は、「何かあるよ、え、なになに、何するの」と興味、関心をもつ。さらに、あそこに自分のつくったものを飾るんだと思うと、意欲が湧いてくる。
- (2) 二人の児童を前に出させ、まず、鉄の渡し方を実演させてみる。もし、間違っていれば正しく直す。針の安全な扱い方と危険性も話し、針の本数を確認してから、使い始めることを教える。

(3) 小学校 わたしたちの家庭科5 開隆堂P11,15、
 繻 新しい家庭 5 東京書籍P6,7,9

図を見て理解できる力を養いたい。まず、やってみる。針に糸を通すということは、子供たちの全神経を集中させる。なかなか通らないのは、どうしてなのか、どうしたら、通しやすくなるだろうかを考え始める。

針はメリケン針（長針No. 6, 8）、指貫（金属製のもの）、糸糸（フェルトの色に合わせた糸）、にぎり鉄、裁ち切り鉄、竹製の20cmのものさしを準備する。針は、長針といっても、No. 6は4cm, No. 8は3.5cmの長さで、長さとおさの違いに気づかせ、使いやすい方を使わせる。針山に人数分の数しか用意しない。メリケン針は針穴が、たて長に楕円にあけられているので、糸を通しやすい。指貫は、運針のように、並縫いをするときに、使うのではなく、フェルトに針を通すときに針を指貫にあてて、押すと、指が痛くなく縫い通せる。金属製は滑るからと使わせないことがあるが、はじめからこれでいいと思う。どうせ使わないのだからと、はめないのではなく、はめていけば、使う必要がある場面に出会った

とき、使うようになる。ものさしは、文具用のものさしとの違いに気づかせ、裁縫時の使い方を教える。

- (4) ～♪ Christmas Music ♪～をカセットから流したり、絵本を提示したりして、マスコットのデザインのヒントに役立てる。雰囲気づくりにもなり、作りたいという意欲につながる。
- (5) フェルトと縫い糸。中に詰める詰め物にいらなくなったストッキングを細かく切って使う。フェルトは、好きな色を自由に選べるようにしておく。
- (6) 玉結びなどがデザインとなるように考えたり、工夫したりしたことを、最後に、飾ったあと発表してもらうことを予告しておく、頑張るようになる。
- (7) 次の2本のビデオから「玉結び、さし縫い、玉止め、かがり縫い」の部分を見せ、納得させる。(NHKビデオ3 たのしく学ぶ小学校家庭科 いろいろな縫い方 三省堂教育開発、NEW VS 小学校 新しい家庭5年 玉結び・玉止め・ボタンつけ 東京書籍)
- (8) 自分で考えて、自分でつくった「私のマスコット」を皆の前で発表することができる、まさに、自己実現の喜びである。
- (9) 評価は、結果に対してだけではなく、途中段階での、やる気につながるこたばがけでありたい。ただ、難を通過して後にもらえたプラスの評価は子供たちにとっては、この上ない感動でもある。

〈展開例2〉

題材名：衣服の働きと着方（第5学年）
 ねらい：衣服のさまざまな働きを知り、目的にあった着方ができる
 時間：45分

学習の展開

児童の活動	教師の支援
・紙芝居を見る	・パンツ君の紙芝居を見せる (1)
・寝冷えをする、寒い、風邪をひく、汗をかく	・みなさんは、どうして裸では寝ないの

・パジャマを着る

・衣服には、皮膚を清潔に保つ働きがあることを知る

・パンツ君からのメッセージをもとに、グループで目的にあった着方を考える

・グループごとに前に出て、〈パンツ君へのお返事〉を発表し、その服を選んだ理由を説明する

(3)

・目的によって、着方がさまざまであることを知る

(4)

・暖かい着方と涼しい着方の理由がわかる

・理由を知ると服を選びやすくなる

・これを着たい気分とはどういうものか

・パンツ君へのメッセージを書くことで、今日の授業でわかったことをまとめる

(8)

ですか

・寝るときは、何を着ますか

・せんたくした布と汚れた布の吸水性を比べる (2)

・パンツ君からのメッセージの書いたワークシートを配る

・いろいろな服の中から、目的にあった服を選びきれないパンツ君に助け船を出そう

・グループの意見を引き出し、目的にあった服を選ぶ際、

・どういう工夫をしているのか問いかける

・それぞれの工夫を評価する

・暖かい着方と涼しい着方を比べて、どんなところがちがっているのか問いかける

(5)

・VTRをみせる (6)

(暖かい体熱の流れ)

・重ね着による空気の層の効果を実感させる (7)

・パンツ君へのメッセージを書く用紙を配る

・次時予告

すが、何を着て良いのかさっぱりです。



図2 パンツ君の服を選ぶ

(2) ここでの実験は、布には、汗や汚れを吸う働きがあることに気づくことをねらっているので軽く扱い、洗濯の必要性や繊維による吸水性のちがいは別に取り扱う。

(3) 服を取り替えることのできるパンツ君人形とパンツ君のもっている服を紙でつくり、マグネットで黒板に貼っておく。いろいろな服を見て、選べるようにしておく。

5つの班へパンツ君からのそれぞれ違うメッセージが書かれているワークシートを渡す。

～①パンツ君からのメッセージ～

今、季節は春です。ほくは今日、遠足で山へ行きます。午後から雨が降ってくると、天気予報では言っていました。こんな時は、どんな服を着たらいいのかなあ。

〈パンツ君へのお返事〉[6]グループより

こんな服はどうか？

山に登るうちに暑くなるかもしれない。ランニングシャツを着て、うすい長袖のシャツを着て、雨が降っても寒くないように、薄手のジャンパーを着るといいよ。ズボン、虫にさされたり、怪我しないように、長ズボンで、動きやすいのがいいと思う。くつ下をはいて、運動靴をはいて行った方がいいよ。沖縄は、春でも、日差しが強いから、日射病にならないように、帽子をかぶって行くといいね。

*どんなことを話し合っ、服を選びましたか。

(1) 自作の紙芝居を準備する。

・紙芝居の内容：小学5年生のパンツ君は、毎朝、朝寝坊してお家の人に起こされています。今日は、弟が起こしにやってきたのですが、パンツ1枚で寝ています。眠い目をこすりながら、着るものを探そうとしま

山登りしやすく、雨が降っても暑くなっても大丈夫なような服を選びました。

～②パンツ君からのメッセージ～

今、季節は夏です。ほくは今日、プールへ行こうと思っています。外はカンカン照りの太陽です。こんな時は、どんな服を着たらいいのかなあ。

〈パンツ君へのお返事〉[3]グループより
こんな服はどうか？

夏は汗をよく吸い取る綿の半袖Tシャツをつけるといいと思うよ。プールで着がえする時も楽だしね。だから、下も半ズボンがいいだろう。はきものは、ぞうりがいいんじゃない。それから、外はカンカン照りだから、帽子も忘れないでね。

*どんなことを話し合っ、服を選びましたか。

夏は、汗をかくので、汗を吸ってくれて、涼しいものを選びました。

～③パンツ君からのメッセージ～

今、季節は秋です。今日は、親戚の結婚式です。こんな時は、どんな服を着たらいいのかなあ。

〈パンツ君へのお返事〉[1]グループより
こんな服はどうか？

ズボンは、小学生なので、黒の半ズボンがいいかもしれない。それに、ベストの組み合わせもいいね。くつは、茶色なので、くつ下は、ズボンに合わせて黒がいい。

*どんなことを話し合っ、服を選びましたか。

結婚式だから、ふだん着っぽくないものを選びました。

～④パンツ君からのメッセージ～

今、季節は冬です。今日は、今年最低気温の9℃だそうです。外に出て、おつかいに行こうと思います。こんな時は、どんな服を着たらいいのかなあ。

絵の描ける子は、図3のように絵で返事をする子もいる。

～⑤パンツ君からのメッセージ～

ほくは、これから眠ろうと思います。どんな服を着たらいいのかなあ。

・パンツ君からのメッセージ

今、季節は冬です。今日は、今年最低気温の9℃だそうです。外に出て、おつかいに行こうと思います。こんな時は、どんな服を着たらいいのかなあ。

パンツ君へのお返事

(5) グループより



*どんなことを話し合っ、服を選びましたか。

汗を吸いとり下着、暖かく着れるように。

図3 パンツ君へのお返事

〈パンツ君へのお返事〉[2]グループより
こんな服はどうか？

- ・バジャマ・下着・スウェットスーツ
(トレーナー)
- ・Tシャツと短パン・浴衣

*どんなことを話し合っ、服を選びましたか。

汗を吸ってくれてゆったりとしたものを選びました。

(4) 目的の要素を捉えさせる

- ・気温や季節 ・活動面 ・衛生面
- ・時と場所 ・似合うか、自分らしいか

(5) 色、形、素材、空気の通しやすさ、重ね方のちがいに気づかせる

(6) VTRを用意する (NHKビデオ教材 2 たのしく学ぶ 小学校家庭科 被服の着方と選び方)

(7) 空気の層 (体熱を維持し、外気の温度を伝えにくくする) の効果を実感させる。

(8) 〈パンツ君へのメッセージ〉の一例

「パンツ君、何を着たらよいか迷っていた

けど、今日、みんなが考えてくれた着方を、参考にしたらいいと思うよ。外が暖かいときは、肌を多くみせるような、首が広くあいたり、そでが短いものを着るといいよ。生地は、綿みたいな汗を吸い取るものがいいと思うよ。でも、沖縄の場合は、うんと暑いときは、肌を太陽にさらさないようにしないとヤケドしてしまうんだ。

寒いときは、肌の露出が少ないものがいいと思うよ。私も今日わかったんだけどね。」

おわりに

私が目指す家庭科教育は、児童生徒一人一人が、未来の生活に夢を抱き、クリエイティブな行動となり、チャレンジしようとする精神や個性を表現できる力を育てることである。

これまでの家庭科の授業の進め方の視点を少し変えることで、子供たちの持っている豊かな感性と溢れる意欲を引き出すことができる。授業を実践してみて、学生たちのもっている若い感受性豊かな感性と意欲と創造性に驚かされた。授業実践の中で、被服のところでは、特に、次のような認識を私なりにしている。

衣服を選ぶ基準になるものは、パンツ君へのメッセージにあるようなことは、もちろんであるが、着るものを選ぶときに、今日は、これを着たい気分というものがあるということに気づかせたい。すなわち、服への思いは、「私が選んだ服」であり、「私の好きな服」であり、「捨てられない服」があり、「服で知る児童の気分」なのである。このことが、とりもなおさず、服の感情（自分）表現といえる。人とはちがう自分を表そうとする。自分を表現しようとすることは、生きている証拠であるともいえる。服は、最も人間に密着したものであるがゆえに、選ばれた服は、その人との服歴を作り出す。服には、そういうところがある。ただ、選ぶ基準は、そのときの気分だけではない。

沖縄にいるときは、このショールをかけて出席しようと決めていたが、はたして、三重県では、合わないのである。気分は同じはず。その土地の温度、湿度、風、光、諸々の条件が違っていると、あちらの土地でよかったものが、こちらの土地では駄目な場合がある。まさに、風土が文化を生み出す所以がここにあるといえる。

また、例えばボタンつけの題材でも、ボタンをつけることができるという技術的なことだけをねらってはいない。機能的には、意味のない、必要のないボタンがついているのは、何故なのだろう。服のもつ表現性の問題である。人間には、美しくありたいとの美的要求がある。即ち、服には、美的要素がある。美は、表現である。服は、人間のこころの表現なのである。気持ちを服で表現する、この服を着れば今の感情を一番よく表すことができるということなのである。服に感情移入がおり、服飾表現される。この表現とは、誰に見せるためのものではない。もし、誰に見せるためであるならば、それは、美的表現とは言い難い。

参考文献

・谷田閔次、石山彰共著、お茶の水女子大学家政学講座 服飾美学・服飾意匠学、光生館、1969.6

資料

小教 わたしたちの家庭科 5 開隆堂P11,15
 編 新しい家庭 5 東京書籍P6,7,9
 櫻井純子監修 NHKビデオ教材 2 たのしく学ぶ
 小学校 家庭科 被服の着方と選び方 三省堂教育開発
 櫻井純子監修 NHKビデオ教材 3 たのしく学ぶ
 小学校 家庭科 いろいろな縫い方 三省堂教育開発
 NEW VS 小学校 新しい家庭5年 玉結び・玉どめ・ボタンつけ 東京書籍